

# 平成29年度ユニバーシアード強化研究会（第63回指導者会議）開催要項

## ユニバーシアード競技大会台北2017の検証と今後の課題 —次回ユニバーシアード競技大会2019に向けて—

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため、毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムや講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

同会議60回の節目となった2014年度は「日本学生陸上フォーラム2015」と題してバージョンアップし、「2020年夏季五輪東京大会に向けて、今、何ができるのか」を考えていく場を一新しました。翌年度の「日本学生陸上フォーラム2016」では、日本実業団陸上競技連合と日本学連の相互協力をキーワードとして学生アスリートの就職支援や就職後の練習環境支援に関するテーマで討論されました。約1年後、毎日新聞（2017年2月12日）に実業団が就職先仲介事業を開始する旨の記事が掲載されておりました。そして昨年度の「日本学生陸上フォーラム2017」では、リオ代表（オリンピック/パラリンピアン）の現役学生アスリートとベテラン社会人アスリートをパネリストとして迎え、「大きな舞台に出場して見えてきたもの」「学生時代にやっておくべきことは何か」のテーマで討論されました。

過去3回のフォーラムを別の視点からみ見ますと、東京五輪2020に向かって日本陸連・実業団・日本学連の連携強化の在り方について様々な視座から討論され、今後における三者の共通の課題と共に日本学連の独自の課題が多々明らかにされました。とりわけフォーラム2017で提案された後者の課題としては、「情報の共有化」「選手の共同育成」「選手への情報提供」「海外大会への出場」等が挙げられました。

平成29年度ユニバーシアード強化研究会は、「第63回指導者会議」の別称であり、日本学連の独自性の1つであるユニバーシアード競技大会で学生アスリートが数多くのメダルを獲得するための研究組織です。本年度の研究目的は、中長期的な視点に立ったユニバーシアード競技大会に関する基本構想案（注：次世代の指導者育成等も含むビジョン/仕組み）の策定も視野に入れながら、ユニバーシアード競技大会台北2017の検証を行って、今後の課題を明らかにすることにあります。研究の基本的枠組みはスポーツ経営学的方法を参考にしました。各演者には検証の視点（注1）と資料（注2）等を基にして検証と今後の課題について発言してもらいます。また進行はフロアの人も含めて活発な意見交換の場になるように努めます。

注1）検証の視点：選手選考、成績、条件

注2）資料：選手選考、JOC報告書（日本学連会報）、競技成績、代表役員アンケート等

### 記

1. 主催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
2. 日時 2018年（平成30年）3月3日（土）（理事会終了後）：受付15:00～15:30、15:30～17:20
3. 会場 中央大学駿河台記念館 670号
4. 対象 日本学生陸上競技連合関係者（地区学連、加盟校等）
5. 定員 120名まで（テーブル3名掛け）
6. 司会 障子 恵氏（跡見学園女子大学、学生連合：総務委員長・指導者会議運営委員）
7. コーディネーター 船原 勝英氏（共同通信社、学生連合：指導者会議運営委員）
8. 演者（順不同）
  - （総轄）栗山佳也氏（大阪体育大学、学生連合：常任理事・強化委員長）
  - 安井年文氏（青山学院大学、学生連合：強化委員会、短距離・ハードル部）
  - 米田勝朗氏（名城大学、学生連合：強化委員会委員、中・長距離部）
  - 森長正樹氏（日本大学、学生連合：強化委員会委員、跳躍部）
  - 岡田雅次氏（国士舘大学、学生連合：強化委員会部長、投てき部）

以上